



【上】収穫期を迎え、父・栄嗣さん(右から2人目)や兄・和以さん(左端)と協力して収穫や選果作業を行う鶴山さん(左から2人目)。右端がJAやつしろの田代さん

【下】趣味は陸上。週末は、所属する地元のランニングチームの練習で汗を流し、平日は自主練習に励んでいます



くまもとあぐりん

Vol.278
JAやつしろ編

「くまもとあぐりん」では、毎月2回、新規就農したJAの組合員やJAグループで働く若手職員を訪ね、農業にける思いや仕事のやりがいなどを聞いていきます。
企画・制作/JAグループ熊本、熊本日日新聞社 業務推進局

全国に誇るトマトの産地 定期的な研修会で安心サポート

干拓事業により築かれた八代平野と、球磨川や氷川といった清流の恵みを受け、JAやつしろ管内では、イ草や晩白柚(ばんぺいゆ)など、全国的に有名な農産物が多く栽培されています。中でも、同JAのブランド「はちべえトマト」はその代表格。生産者の努力とJAの手厚いサポートにより、自慢のトマトが育まれています。

**有数の産地としての誇りを胸に
おいしいトマトを届けたい!**

幼い頃から、トマト栽培を営む両親の手伝いを自分から積極的に取り組んでいたという鶴山万智さん。高校へ進学した後は、両親の働く姿に刺激を受け、「八代産のはちべえトマトを全国の消費者へ届けたい」との希望を抱いて就農しました。

八代産トマトを食べた人からの「おいしい」との喜びの声が何より励みで、「収穫量をもっと増やせるように頑張りたい」と話します。干拓地にあるハウスの広さは1畝ほど。鶴山さんは主に収穫や芽摘み、葉かぎを担当しており、きれいな好きの性格が高じて、葉を摘み取る葉かぎの作業が気に入っています。熊本地震以降は、地盤の変化のために塩トマトの収穫量が減少してしまい、現在では収穫量の約99%を丸トマトが占めています。自然相手の仕事に試行錯誤を重ねる日々ですが、そんな時に頼りにしているのが、高校の同級生でもある同JA営農指導員の田代陽之さんの存在。JA主催の講習会や現地での勉強会は、貴重な学習と成長の機会になっているそうです。

指導にあたる田代さんは、「全国で八代産トマトの認知度が高まると高まるように、鶴山さんらの若い力で地域の農業を盛り上げてほしい」と、熱いエールを送ります。



県内JAの情報は
こちらから



耕そう、大地と地域のみらい。 JAグループ

**農業
はじめ
ました!**



JAやつしろ・トマト選果場利用組合
つるやま まさと
鶴山 万智さん(20歳・就農2年目)